

OCHADAI GAZETTE

お茶の水女子大学学報 第215号 2008年3月24日

OCHADAI GAZETTE Spring, 2008



伝えていくもの、拓いていく未来

世界をリードする人材の育成 ～女性・若手研究者支援～

CONTENTS

TOPICS

上川陽子大臣がお茶の水女子大学を視察.....1	
オープン！子ども・家庭大臣室(第一回)	
グローバルCOEプログラム.....3	
「格差センシティブな人間発達科学の創成」	
21世紀型お茶の水女子大学.....5	
さまざまなプロジェクトの遂行	
教育プログラムの推進.....7	
AO入試の実施・高大連携特別教育プログラム	
創立130周年記念事業.....9	
募金のご協力ありがとうございました	

教員紹介.....11	
曾根博仁先生(大学院人間文化創成科学研究科)	
お茶大アカデミック・プロダクション.....13	
自立する研究者を育成する新たな取り組み	
お茶大が有形文化財登録.....15	
4つの建造物の有形文化財登録が決定	
キャンパス点描.....17	
叙勲・寄附・奨学金受賞者紹介・学長サロン	



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

上川陽子大臣がお茶の水女子大学を視察

オープン！ 子ども・家庭大臣室（第一回）

平成19年11月9日、お茶の水女子大学に内閣府特命担当大臣（少子化対策・男女共同参画）上川陽子大臣が来訪されました。これは、大臣が温めてこられた「オープン！子ども・家庭大臣室」の第一回目の視察として行われたものです。

上川大臣は、女性研究者や学生とひざを交えて歓談され、研究者や学生を激励されました。お茶の水女子大学では、男女共同参画社会の実現を目指し、現在「女性研究者支援」事業として、ワーク・ライフ・バランスを目指したプログラム「女性研究者に適合した雇用環境モデルの構築」を実施しています。この事業を中心として、女性研究者の現状と、これから社会に出る学生が現在いだっている夢や不安について対話が交わされました。

「将来、夫婦で育児休暇が取れるようになってほしい」

「会社でも育児支援の取り組みをしていますが、自分が就職したら、その取り組みを推進する立場になりたい」

「どこの大学でもお茶大のような取り組みをおこなってほしい」

といった学生の発言に対して、大臣は、それぞれの立場で「対話」を始めていただきたいし、先進的な取り組みに対しては支援してゆきたい、「学生は欲張りな希望をもって」と学生を激励されました。



対話終了後は、本学の学内保育施設「いずみナーサリー」を見学され、子どもたちは楽しみに大臣と話をしていました。さらに、大学歴史資料館、徽音堂を視察され、おりしも翌日からの徽音祭の準備中の学生とも親しくお話をされていました。上川大臣のご発言のなかに、しばしば、「きめ細やかな対応」、「距離のない姿勢」という表現が登場していたのが印象的でした。

「お茶の水女子大学のこの取り組みは、女子大でなければなしえなかったのではないか、今後男女共同参画社会が定着していくための発信基地となってほしい」と記者会見で語られたことを、誇りに思うと同時に身の引き締まる思いがしました。



上川陽子大臣がお茶の水女子大学を視察

オープン！ 子ども・家庭大臣室（第一回）

グローバルCOEプログラム

「格差センシティブな人間発達科学の創成」

平成19年度に採択されたグローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」について、拠点リーダーの耳塚寛明教授にその概要を伺いました。

格差センシティブ、というとならトレンディーな感じですが、お茶大にはジェンダーの問題からの発想の伝統が長く、様々な取り組み、例えば「9時～5時勤務」や学内託児所「いずみナーサリー」の設置、学生院生に対しては保育料半額等の施策が既にありました。更に今回に先立つ21世紀COE「誕生から死までの人間発達科学」でプロジェクトを設置、教育学・心理学・社会学の各分野からのアプローチ、分野を超えての研究に取り組んだ中から幾つもの問題が浮き彫りになったのです。例えば収入と学歴が関連付けられる、即ち発達に経済格差や学歴格差がある等です。これにより格差はその代限りに留まらず世代を越えて再生産される事が解ります。こうしたメカニズムの解明と是正の方策を前掲の各分野で協力して研究するのが、このグローバルCOEに繋がる課題です。

この課題の為、本学が得意とする3領域に分類して活動していきます。

“社会的格差”の3領域

格差是正の普遍的モデル

この領域では子どもの養育環境に関する格差について、主に心理学的視点からその解明を目指します。
「子どもの家庭養育格差の測定と出現メカニズムを解明する」などが主要な研究テーマです。

この領域では格差を測定し、格差が起こるメカニズムを解明すると同時に格差是正の政策評価を行います。

前者では既に同一集団を対象とした追跡調査を2003、2006年に行い、青少年期から成人期への移行における様々な格差について研究してきました。後者についてマイクロシミュレーション等の手法で教育政策や社会政策の政策評価を強化していきます。

養育環境
格差

教育・社会的
格差

国際的
格差

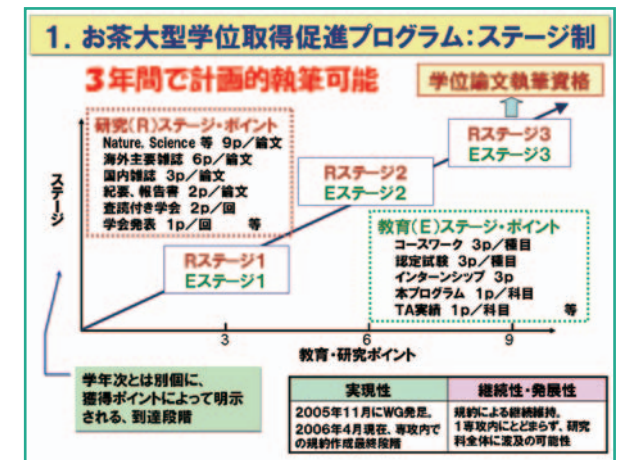
これまでのアフガニスタン、ベトナム、モンゴル、パキスタン等開発途上国の女子教育や幼児教育で培って来た「お茶大モデル」とも呼ぶべき現地化ノウハウを深度化しつつ、幼児教育を中心に、国際的格差構造解明と是正の為の教育支援のあり方について研究する領域です。

COE拠点形成には国際的吸引力を活かし対応、ベトナム国立教育大学のタイ教授、韓国・梨花女子大学李教授の2名の幼児教育専門家を事業推進担当者にお迎えしています。

またグローバルCOEでは予算の多くを教育活動に費やし、「社会的公正性」を追求し、研究・実践両面を行き来しながら活動できる行動力を持った若手研究者養成を志向しています。

1. ステージ制・アカデミックトラック制の拡大

いずれもお茶の水女子大学オリジナルの特徴ある制度であり、ステージ制は博士課程において3年で学位を取得してもらうことを意図して、研究ステージと教育ステージで得点を設け、各ステージで一定得点に達すると学位論文を執筆する資格が得られるようになっていきます。アカデミック・トラック制は学部4年生から修士課程へのつながりをスムーズにするため、学部の卒業論文を修士論文の第一段階と位置づける制度であり、言わば修士課程への学内推薦制度とも言えるものです。



2. 基盤教育プログラム

研究者としての基本的な能力養成のため以下の多様な支援が行われます。

①公募研究

研究計画を申請し、審査の上で1件につき最大50万円の研究費を支給する制度。
年間20件の枠が用意されています。

②交換留学プログラム

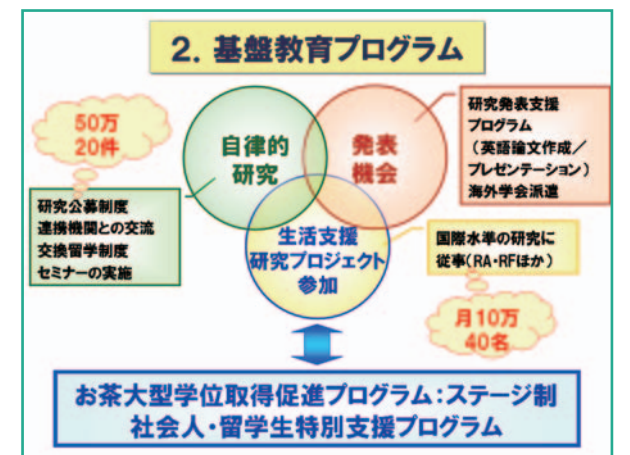
自立的研究機会を保障するため、交換留学のかたちで海外における研究活動を支援する制度。

③研究発表支援プログラム

国際学会における発表を想定し、国際発信能力を養成するための取り組み。英語で論文を書くセミナーやプレゼンテーションのセミナーを開講し、グローバルに活動できる研究者養成を行います。

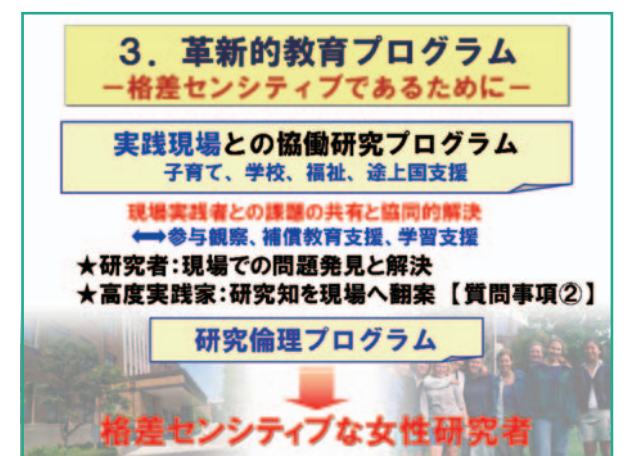
④リサーチアシスタント雇用

博士課程の学生がリサーチアシスタントとして給料を受けながら自分の研究をおこなう制度。経済的な不安を減らし研究に専念できるようバックアップする取り組みであり、研究状況を審査のうえで年間20人を雇用する予定。



3. 革新的教育プログラム

格差センシティブなマインドを養成するため、子育てや保育などの実践現場との協同研究プログラムに研究費を補助する取り組みとなります。研究と実践現場の連携により研究者は現場での課題発見や解決策を見出し、現場の実践者は研究者から得た見識を現場に反映することが期待されます。該当する取り組みには協同研究補助制度として10万円の研究費を補助します。



グローバルCOEプログラム

「格差センシティブな人間発達科学の創成」

21世紀型お茶の水女子大学

さまざまなプロジェクトの遂行

科学的思考力と表現力で築く「私の履歴書」

現代GP（文部科学省）

図書館1階の入口スペースにて、去る平成19年12月17日にスタートした「キャリアカフェ」。今回のオープンにあわせて、飲料のベンダーも新設されました。そこで、今回はこのカフェの仕掛人である、『科学的思考力と表現力で築く「私の履歴書」』責任者の千葉和義教授にお話を伺いました。

キャリアカフェ開設の意図をお聞かせ下さい。

来年度から本格的にスタートするキャリアプランニングの授業では、キャリアメンターと呼ばれる外部の方や先輩が講師として登場する予定ですが、例えばその前後の時間帯に飲物を片手に情報交換したり、個人的な質問をしたりする場所が欲しい、ということで場所を捜していました。ちょうどその時に、附属図書館からご協力の申し出をいただきまして、開設することができました。

するとそのキャリアプランニングの授業、ひいてはこのGPを象徴する場所として機能しそうですね。

そうですね。今回のGPのサブタイトルは「キャリアレポート放送局で育む職業意識」ですが、「自分史を書く」という考え方で出発しました。そして、大学で自分史づくりと言えば、様々な授業で提出するレポートや課外活動の情報を集積していくことが役立つのではないかと考えました。今春から開局するキャリアレポート放送局は、本学の新しいレポート管理ネットワークシステムです。教員からアドバイスをうけたり、場合によっては友人と意見交換したりといった推敲の過程を反映し、残すことも可能なシステムです。また、エッセンスのみを抽出することも可能ですので、例えば就職活動において自分がこれまで築き上げてきた自分史を企業の採用担当者に見てもらうことで、自身のアピールを図ることも可能です。もちろん、その際のセキュリティへの配慮は万全を期しています。

客観視して言語化する習慣もつきそうですね。

その通りです。意識化という作業を通じて思考をみがくという狙いがあります。

今後の展開をお聞かせ下さい。

まずは、教員にとっても学生にとっても利便性の良いレポート管理システムの構築を目指します。その上で、優秀なレポートは読めるようにして、後輩達に当該授業の理解の一助とすることを考えています。また、最近では様々な外部資金により似た考え方の企画も多いですから、ゆくゆくはコラボレーションも考えたいですね。

なんと言っても、たくさんの先生方や学生たちに利用されていて、網羅の範囲が広がることが鍵ですから、説明会を何度も開催する予定です。奮ってご参加下さい。



キャリアカフェ
科学的思考力と表現力で築く「私の履歴書」
<http://sec.cf.ocha.ac.jp/cagp/index.html>

※「現代GP（Good Practice）」は「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の通称です。文部科学省は、学生教育の質の向上など、優れた取組「Good Practice」を選定し、財政的なサポートや幅広い情報提供を行い、教育改革の取り組みを促進しています。「Good Practice」は、近年の諸外国の大学教育改革でも注目されている用語です。これを略して「GP」と呼んでいます。

日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成

大学院教育改革支援プログラム（文部科学省）

昨年9月に「大学院教育改革支援プログラム」（文部科学省）として採択されました「日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成」の概要について、代表の近藤譲教授に寄稿していただきました。

昨年度まで2年間にわたって「魅力ある大学院教育イニシアティブ」(文部科学省)の支援を受けた「＜対話と深化＞の次世代女性リーダーの育成」プログラムでの実績を踏まえ、また、これまでの経験から見てきた問題点の解決を積極的に図ることで、国際日本学の研究と教育を更に拡張・発展させていくことが、本プログラムの目的です。

このプログラムの背景にある問題意識とは、つまり：①国際社会で活動するためには、当然、高度な国際的コミュニケーション能力が必要であること。②日本の人文系研究分野が高度な水準にあるにもかかわらず、現状では、それが国際的になかなか認知されておらず、その主な原因が、研究者の国際的伝達能力の不充分さにあるのではないかとということ。③グローバル化する今日の社会では、価値が一元化していく傾向がありますが、そうした傾向を相対化する眼差しとして、日本的思惟方法の提示が役立つに違いないということ。以上3点です。本教育プログラムは、これらの問題点の総合的な解決に向けて、人文系の大学院生の国際的コミュニケーション能力を練磨し、それと共に、日本文化研究の発信の担い手として、国際レベルでの社会・文化貢献を為すために必要な能力、知識、思考力を涵養しようとするものです。



こうした教育プログラムによって、学生は、日本学研究の最高水準の研究環境の中で学びながら、同時に、海外の大学に留学して得られるのと同程度に高度な国際性を獲得できる。即ち、本学大学院で学ぶことで、極めて高度な専門研究と国際性を身につけることができるのです。

今日の国際社会では、男女が差別なしに共に社会・文化に貢献することが当然となりつつあるわけで、したがって、国内外の大学や研究機関だけでなく、文化機関や、国際政治機関等にも、ますます高い能力をもった女性の進出が期待されています。本教育プログラムによって、正に、そうした国際社会の要請に応える人材が育成されるに違いありません。

（近藤譲 大学院人間文化創成科学研究科
基幹部門文化科学系教授）

海外インターンシップやアカデミック
ディスカッションの実施

日本学研究コーパスの構築による
情報の海外発信とノウハウの学習

学際的・総合的視点から日本的思惟方法と
文化を理解するための副専攻を設置



日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成
<http://www.dc.ocha.ac.jp/dics-jacs/index.htm>

21世紀型お茶の水女子大学

さまざまなプロジェクトの遂行

教育プログラムの推進

AO入試の実施・高大連携特別教育プログラム

AO（アドミッション・オフィス）入試の開始

「学際性」「国際性」をもつ将来の女性リーダー育成へ



21世紀の高度情報化とグローバル化の進展する社会においては、専門的知識、創造力、コミュニケーション力、応用力などが求められています。お茶の水女子大学は「学際性」と「国際性」をもった将来の女性リーダーの育成を目標とし、従来の学力試験では評価できない総合的な資質を持った学生を選抜するため、2007年よりAO（アドミッション・オフィス）入試を開始しました。公表が7月のオープンキャンパスと遅かったにもかかわらず、多くの受験生の関心を得、競争率11倍の難関となりました。

一次は志望理由書・活動報告書・調査書の書面審査が行われ、二次では、一日目は文理の双方にまたがるテーマでの模擬講義（2本）をもとに、講義レポートとグループ討議を経て、小論文をまとめ、二日目には英語による模擬講義、講義レポート、グループ面接と多彩な選考が行われました。2日間にわたってじっくりと、様々な角度から受験生と教員が触れ合うことができ、互いに充実し有意義であったと実感しました。二次受験生のアンケートでも、他の受験生の意見を聞くことができ楽しく充実していたことや、AO入試があったからこそ大学での目的を考えることができ、AOの経験を通してさらにお茶大への思いが強くなったことなどの感想が大半を占めました。

また、AO入試は大学教育への目的と意欲を高め、高校から大学へのスムーズな連携を図ることも目的としています。そのため、AO入試の一環として入学前教育にも力を入れています。昨年12月には合格者研修会を開催し、9名の合格者が集い、学長、副学長から「AO一期生」として激励をうけ、キャンパス見学や学科訪問などを通じて、より一層大学入学への希望を膨らませました。その他、各自の研究テーマについてのレポート作成や英語教育、大学生活に関する情報提供、質問、相談など学生へのきめ細やかなサポートを行っています。

21年度募集は、5月にホームページで概要を公表する予定です。

女性の能力の開発をめざす高大連携教育

附属高校との連携による7年間の特別教育プログラム



2005年からお茶の水女子大学と附属高校との連携教育が開始されました。これは、高校と大学をつなぐ7年間の特別教育プログラムで、お茶の水女子大学と附属高校の緊密な連携により、女性の能力開発に有効なプログラムを研究・推進することが、その目標となっています。

具体的には、つぎの4つのメニューがあります。

1. 教養基礎 高校と大学教員の連携による高校12年を対象とする国語、数学、英語の必修授業です。国語では、テーマに即した多読と表現活動を重視して日本語運用能力を開発することをめざし、「歴史のうねりと社会」「女性・人生」「文化」というテーマを設定して教材を選択しています。数学は「虹」という自然現象を題材とし、それをめぐる文化的・科学的な対話をとおして数学的な興味や関心を育てます（「虹の数学」）。英語はMichigan Action Englishを活用し、聞く、まとまった文章を読む、自分の意見を話す、書く力を養います。

2. 選択基礎 高校三年生が大学の学科等（学科、講座、コース等）を選び、そこで専門の基礎教育を受講します。これによって、志望専攻分野に対する興味や意欲を膨らませるとともに、その分野と高校における各教科内容との関連を示し、高校の教育課程における学習の意欲付けを啓発するものです。受講者は、大学の高大連携特別選抜試験を受験する資格を得ます。大学の2単位（週時間）の授業に相当し、生徒に応じた個別課題と指導（講義、講読、実験等）を行います。履修希望者は、高校2年次の1月に応募し、高校の推薦と大学側の審議を経て受講が認められます。

3. 大学の公開授業 大学の入門的な授業を高校生に開放し、受講者は単位認定をうけることができます。ひとつのキャンパス内だからできる試みです。中国語などの語学や心理学など高校では設定されていない授業を一足早く受講し、自分の進路を考えることができます。

4. 大学入学後の教育 08年度からこの高大連携特別選抜による新入生8名が大学に入学し、大学側での教育が始まります。

このほか、高校の授業に大学教員が出前授業に赴くことも日常的に行われています。大学教員にとっても、高校生の関心を知る良い機会になります。附属高校1年生を対象としたキャリア・ガイダンスを毎年12月に実施しています。これは全員参加が原則で、文教育学部（12のコース・環）、生活科学部（3学科5講座）、理学部（5学科）に加え、大学に専門コースが設けられていない分野（医学、法学など）についても当該分野の教員がガイダンスを行うことにより、将来の進路を考える機会を提供しています。

教育プログラムの推進

高大連携特別教育プログラム・AO入試の実施

「創立130周年記念 徽音堂（講堂）施設整備に関する募金」 「歴史資料館施設整備募金」

本学では、創立130周年記念事業として平成17年1月から「創立130周年記念徽音堂

（講堂）施設整備に関する募金」を、また平成18年10月から「歴史資料館施設整備募金」の受付を開始し、それぞれ平成19年10月、平成19年9月に受付を終了しました。

皆様のご寄附により、計画どおりに施設設備等の整備を行なうことができましたことをご報告するとともに、ご寄附されました皆様方に深く御礼申し上げます。

引き続き、本学の教育・研究環境を整えていくための募金活動を進めてまいりたいと考えておりますので、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

創立130周年記念徽音堂（講堂） 施設整備に関する募金

創立130周年記念事業として、平成17年1月から平成19年10月の約3年間、創立130周年記念徽音堂（講堂）施設整備に関する募金を設置し、卒業生の方々を中心に総計1億9千600万円のご寄附をいただきました。

この寄附により平成17年度には冷暖房設備の新設と照明装置の改修、平成18年度には講堂内部の改修、入学式・卒業式などに使用するスタインウェイピアノなどを購入し、建築当時の面影を残しつつ、最新の機器を設置する改修が行なわれました。



ぜひ、ホームカミングデイ（次回は平成20年5月31日（土））などの大学行事の際にご覧いただきたいと思います。

歴史資料館施設整備募金

本学には、開学にあたり昭憲皇太后から下賜された本学校歌「みがかずば」をはじめ、数多くの貴重な資料が残されています。

このような貴重な資料を多くの皆様にご覧いただく場として、平成18年3月に「歴史資料館」を大学本館1階に設置し、施設整備を目的に平成18年10月から平成19年9月にかけて「歴史資料館施設整備募金」を募りました。その結果、卒業生の方々を中心に総計1,700万円のご寄附をいただきました。

この寄附によって、ガラス展示ケースの購入など、歴史資料館での常設展示に向けて準備を進めることができました。ご寄附いただいた方々に厚く御礼を申し上げます。



※「創立130周年記念徽音堂（講堂）施設整備に関する募金」と「歴史資料館施設整備募金」の受付は終了しました。この他、お茶の水女子大学へのご寄附につきましては、基金企画係<TEL:03-5978-2556 E-mail: kifu@cc.ocha.ac.jp>にお問合せください。

教員紹介

生活習慣病の先端的研究

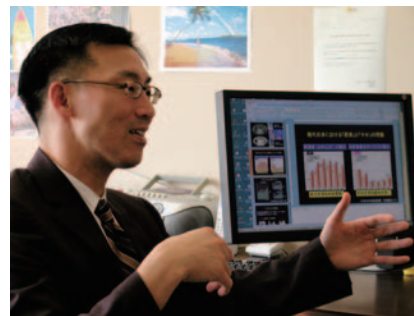
ご自身の研究や教育観などを語っていただく「教員紹介」の第2回は、人間文化創成科学研究科基幹部門自然・応用科学系の曾根博仁准教授にお話を伺います。

曾根先生は筑波大学医学専門学群代謝内分泌内科講師・外来医長を経て、平成18年度に本学へ着任されました。ご専門は、生活習慣病医学(糖尿病学、代謝内分泌学、動脈硬化学)、生活習慣病臨床疫学、健康科学です。



Hirohito Sone
曾根 博仁

健康はわれわれの生活を支える最も重要な要素の一つ。
心身の健康的な生活のための研究教育は、家政学から発展した
生活科学に与えられた新しい使命だと思います。



先生のご専門は？

私は、肥満や糖尿病、高血圧、動脈硬化など「生活習慣病」の専門医で（正式には代謝内分泌内科と言います）、昨年ここに来るまでは、筑波大の医学部／スポーツ医学大学院で教育研究にあたっていました。現在は「生活習慣病医科学」研究室を立ち上げ、生活科学部の管理栄養士課程の学生さんを中心に教えています。

生活習慣病は放置して悪化すると、心臓病や脳卒中などの動脈硬化疾患を引き起こし、生命や生活の質を大きく損ないます。ですから予防や早期治療が重要で、そのためには食生活や運動などライフスタイルの改善がかなり有効です。私は、ライフスタイル改善を通して生活習慣病を予防することにより、健康寿命を長くする、すなわち元気に長生きできるようにするにはどうしたらいいか、ということの研究をしています。そのためには、医学だけではなく、栄養食物学、運動スポーツ学、教育学、心理学など学際的なアプローチが必要だと考えており、本学はそのような分野も充実しているので新たな視点に基づく研究ができるのではと期待しています。

健康はわれわれの生活を支える最も重要な要素の一つで、心身の健康的な生活のための研究教育は、家政学から発展した生活科学に与えられた新しい使命だと思います。本学の生活科学部が管理栄養士という医療従事者の育成を始めたのもそのためで、その意味でも、本学卒業の管理栄養士は、栄養のスペシャリストにとどまらず、運動や嗜好品、ストレスなども含めた生活全体で健康を考えられるようになってほしいと思っています。

現在行っているお仕事は？

医学を志した頃は、人間の身体は全世界共通、ユニバーサルなものだと考えていました。しかし、研究を進めていくと、人種・民族によってかなりの違いがあり、それが生活習慣病にも大きな影響を与えていることに気づきました。

例えば欧米の医学の教科書には、糖尿病患者の大部分は太っていると書いてあり、日本でも多くの人はそう思っているかもしれません。しかし実際に調べてみると、日本人の患者さんの場合は、平均的にはほとんど太っていないのです。とても単純なことですが、実は知られていなくて世界的な医学雑誌で紹介されました。このような経験を何回もしたので、欧米の教科書に書いてある常識は、まず疑ってみる必要があると思っています。

このことは同時に、日本を含む東アジアの人々にとって生活習慣病予防に役立つデータは、欧米の研究結果からは得られず、われわれが独自に研究していく必要があるということを示しています。たとえば食事や運動にしても、どのような状況の人にどのような食事や運動が適しているのか、まだわかっていないことが多いのです。

特に日本人は、欧米のような食生活をし、車に乗って運動しなくなると、糖尿病に罹りやすくなることがわかってきています。できるだけそうならないためにはどうしたらいいか？

基本的には、特定の食品に偏らず適正な量でバランスの良い食事をすることと、生活の中に運動を取り入れることです。忙しい現代人はなかなかスポーツをする時間がありませんが、なるべく生活の中にスポーツを取り入れることが必要です。私は中野坂上の官舎から毎朝ジョギングで通っています（驚！）。



学生に伝えたいことは？

若い女性はいわゆる「ダイエット」に関心を持つ人が多いですね。しかし、現代の若い女性の多くは実は痩せすぎであることが統計的に示されています。若いときに痩せすぎていると、骨がもろくなる骨粗鬆症など年を取ってからの健康に悪影響を及ぼす危険性もあります。だから無理なダイエットは非常に危険です。

お茶大の学生さんは、たいへん高い潜在能力を持っていると思います。ただ、その力を出し切っていないのが残念です。もっとどんなに勉強でも研究でも頑張れば、必ず世界に通用する仕事ができるはずです。お茶大が世界レベルの成果を輩出するためには、その意気込みがどうしても必要だと感じています。



インタビューを終えて

医学者と民俗学者。専門が全く異なる者同士のインタビュー。でかい大学や既存のアカデミズムでは、まずありえません。でも、話していると、「あ、これは！」と結構話が合うのです。話していてとても刺激的で楽しかったです。

宮内貴久（人間文化創成科学研究科
基幹部門文化科学系 准教授）

教員紹介

生活習慣病の先端的研究

有形文化財登録

お茶の水女子大学の4つの建造物が登録されます

お茶の水女子大学の4つの建造物が有形文化財に登録されることになりました。「大学本館」「大学講堂」「附属幼稚園園舎」「大学正門」です（平成19年12月7日 国の文化審議会が答申）。

大学本館

「大学本館」は、関東大震災後の1932年(昭和7年)に、不燃構造による校舎復興の一貫として建築されたものです。昭和初期の国立高等教育機関の建築デザインを残す貴重な建造物であるだけでなく、卒業式の皇后臨席に関連して「貴賓室」を有していることでも歴史的価値があります。通常、高等教育機関は、知の集約性の象徴として中央部に塔を配することが多いなかで、大学本館は、パラペット頂部を表現主義風のカーブでまとめ、左右の窓を2連窓にして、窓台を白にし、立面のアクセントにしています。

知を女性に広げ、万人が共有し追求していくものであることを願う本学の建学当初からの一貫した願いが、このデザインに込められていると言えるでしょう。前面の植物文様のレリーフも、環境重視の現代を予見する本学の先見性を示しているかもしれません。



大学正門

「大学正門」は、一対の門柱とその両脇の塀で構成されています。全体的にシンプルで、各面の平面性を強調するデザインです。照明器具も「線」と「面」という幾何学的要素で造型され、近代建築の美学が反映されています。昭和初期の時代をしのばせる歴史的価値を有する建造物です。



大学講堂

「大学講堂」は大学本館と同年に、それと一体化する構造で建設され、日々の教育・研究と、学舎で学び、研究し、働く人々が集う機会を、有機的に結びつけたものです。大学講堂は「徽音堂（きいんどう）」と呼ばれ親しまれていますが、この名称を記した額は、いまま舞台上に掲げられています。

この両方の建造物は、歴史的価値の維持を基本方針に掲げて、近年、注意深く改修されました。



附属幼稚園園舎

「附属幼稚園園舎」は1931年(昭和6年)に竣工されましたが、特筆すべき点は、平屋構造であるにもかかわらず、鉄筋コンクリート造であることです。

その天井の高さ（保育室で3.35m、中廊下で4.15m）を見るだけでも、幼児教育に対する本学の高い理想が反映された特別の施設であることがわかります。床は当時より、タイル張りの玄関ホールをのぞき、すべて檜材のフローリングで、各保育室の出入り口上部には、クラス名に対応した文様の美しいステンドグラスが配されています。



有形文化財登録

お茶の水女子大学の4つの建造物が登録されます

キャンパス点描

平成19年度 秋の叙勲



佳日、平成19年11月3日、前学長の本田和子先生が秋の叙勲において「瑞宝重光章」を受章されました。この折に同章を受けられた37人のなかで唯一の女性受章者です。

本田和子前学長は、国立大学が独立法人化される過渡期の困難な時代に、いち早く本学の使命を「すべての女性が輝くための高等教育機関」と明確に位置づけ、その使命遂行のために本学の教育研究組織の刷新を、鮮やかに、また周到におこなわれました。また女性の教育に取り組まれた真摯な御姿勢は、本学のなかだけに留まらず、アフガニスタン戦争直後には、本学が当地の女性教育支援をおこなうことを国際社会へ向けて約束され、他の4つの女子大学に呼びかけて、5女子大コンソーシアムとして力を合わせ、女性教育の国際的活動を推進してこられました。

もちろん「瑞宝重光章」という高位の章の受章は、本田和子前学長の偉業が公的に明らかにされたということですが、本田和子先生の薫陶を受けた学生たち、またそのリーダーシップのもとで働いた教職員はみな、本田先生の聡慧で英明かつ公正、闊達な御資性に深い感銘を受けてきました。あらためて本田和子前学長の御受章をお慶びしたいと思います。

なお本田先生は学長職を引かれたのち、すぐに専門分野で御著書を上梓されました。『子どもが忌避される時代—なぜ子どもは生まれにくくなったのか』は主要各紙の書評で絶賛され、大きな影響を与えています。

また、今回の叙勲においては、本学の名誉教授である市川孝先生も瑞宝中勲章を受章されました。あわせてお祝い申し上げます。

「女子高校生のためのサイエンスフェスティバル」開催

(平成19年10月27日)

女性研究者支援事業の一環として、五女子大学（お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、奈良女子大学、日本女子大学）による女子高校生を対象にしたシンポジウムを開催しました。社会の第一線で活躍する卒業生によるパネルディスカッションや学部生・大学院生による相談会などを通じ、理系を目指す女子高校生やその保護者との交流を図りました。



寄附・寄贈等

(1) 茶室

茶道部指導者（故人）のご遺族からの寄贈です。裏千家家元による監修により、平成20年度上半期に完成予定です。

(2) ベニヤエシダレザクラの植栽

卒業生からの寄贈です。ベニヤエシダレザクラ、ドウダンツツジの植栽、張芝、舗装園路設置により多目的広場を整備します。3月に完成予定です。

学長サロン ～郷学長と語ろう～



学生の素直な意見や考え方、人生観等について学長と学生が直接会話できる場として「学長サロン～郷通子学長と語ろう～」を平成19年11月28日に開設しました。

学部学生と大学院生6名が、1時間半にわたり、女子大学の特色を活かした女性リーダー育成の考え方、文系又は理系の進路選択等について学長と意見交換がおこなわれました。

学生が気楽に参加できるようにと学長が準備したケーキと紅茶の効果もあって、参加した学生は緊張しながらも和やかな雰囲気の中、学長と積極的に話すことができました。

奨学金受賞者と学長表彰者の決定

平成19年11月6日、本学独自の奨学金のうち、「保井・黒田奨学金」「被服学奨学金」「食物学奨学金」「大学院研究科奨学金」「池田摩耶子記念奨学金」「池田重記念奨学金」「湯浅年子記念特別研究員奨学金」「数学奨学金」「生物学優秀学生賞奨学金」「育児支援奨学金」の授与式と平成19年度学長表彰者の表彰式がおこなわれました。



保井・黒田奨学金

柳井 佳奈
石野 千恵子
栢沼 愛
嶋田 勢津子
渡辺 知恵美
被服奨学金
難波 知子

食物学奨学金

中森 正代
大学院研究科奨学金
柳澤 実穂
土田 敦子
池田摩耶子記念奨学金
ZHENG YANAN
HUANG YUNJU

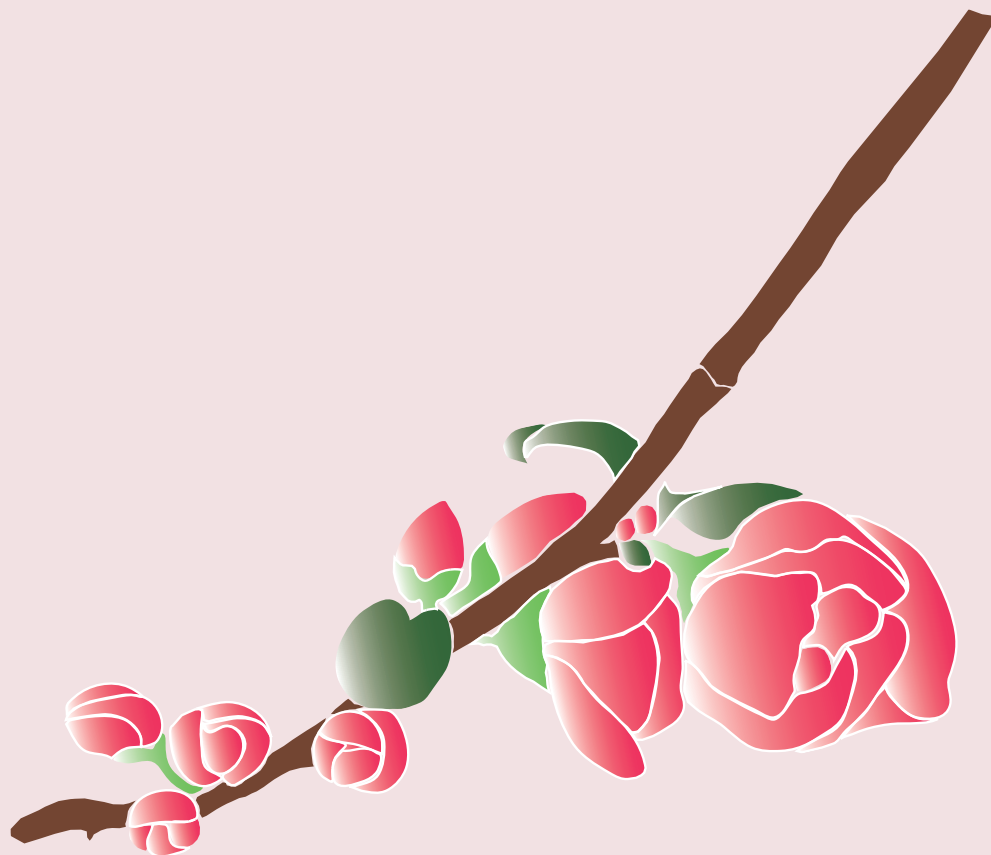
池田重記念奨学金

LEE SUJIN
湯浅年子記念特別研究員奨学金
櫻井 宗良
数学奨学金
塩盛 由貴子
生物学優秀学生賞奨学金
積田 知佳

育児支援奨学金

小森 奈津子
小林 君江
蛸子 友紀
水越 美和
宮本 めぐみ
岡村 利恵
小樽山 希
平成19年度学長表彰者
大澤 絢子

キャンパス点描



お茶の水女子大学学報 第215号

▽発行 日： 2008年3月24日

▽発行 行： 国立大学法人お茶の水女子大学
東京都文京区大塚2-1-1 (〒112-8610)

ご意見・ご感想はこちらまで

学術・情報機構広報チーム

電話 03-5978-5105

FAX 03-5978-5545

E-mail: info@cc.ocha.ac.jp

URL: <http://www.ocha.ac.jp/>